37

株式会社 ウエノ

http://www.ueno-towel.com/



吸水性と肌触りが優れる

「泉州タオル」の自社ブランド製品とOEMを製造

平成29年度 補助事業と具体的成果

■ 事業テーマ

手縫い工程を自動化

■ 事業概要

多種多様なタオルを手がける中で、同社は縫製の生産能力を高めようと織機を導入。続いてタオル生地の端を縫って仕上げるヘムミシン掛け工程も自動化する必要に迫られた。今回の「ものづくり補助金」を活用し、自動タオルヘム機を導入。手縫いに頼っていた工程の自動化したことで生産能力が上がり、取引先の要望にさらに応えやすくなった。品質も手作業と変わらないきれいな仕上がりを実現。生産能力の向上に伴い、検品など他の作業に充てる時間ができたことも"副産物"となった。「これまで見逃されていた縫製不良などが検品で見つかるようになり、クオリティーが上がった。『お客さま重視』を打ち出すうえで大きなメリットだ」と上野専務は実感を込める。



導入した自動タオルヘム機

課題	取組	成果
●増産の要望	●織機の導入	●自動化で生産能力向上
●手作業のヘムミシン掛け	●自動タオルヘム機を導入	●クオリティーもアップ

■ 業務内容

自社ブランド製品を扱う

「ホテルスタイル」は約15年前に始め、百貨店やスーパー、カタログ通販業者などに直接納めている。「泉州美人」は平成30年秋に立ち上げたばかり。これらの自社ブランド製品を扱うことで「小売店とつながってきた」と上野勝宣社長は説明する。

自社ブランド製品のさらなる拡充を目指す一方で、ＯＥＭも重視している。上野智行専務は「次のステップに移りたいと思っている段階。自社ブランドとＯＥＭのちょうどいいバランスを見極めていく」と強調する。

増産要望に対応する生産体制の構築

ウエノは昭和42年に創業した「泉州タオル」の老舗メーカー。自社ブランドや他社ブランドのタオル製品をつくり続けている。

泉州タオルはタオルを織った後に不純物を取り除く「後晒製法」が入るため、吸水性に優れ、肌触りのよい仕上がりになるのが特徴。同社は創業以来、後晒を含めた泉州タオルの製法を守り通してきた。現在、売上高の約２、３割を「泉州美人」「ホテルスタイル」といった自社ブランド製品が占め、他にＯＥＭ（相手先ブランド生産）も手がけている。



自社ブランド製品の「泉州美人」

■ 強みとビジョン

ブランド価値をさらに高める

大阪・泉州は日本のタオル産業発祥の地として知られ、泉州タオルには高いブランド力がある。近年は高品質な日本のタオルが海外でも認められ、輸出は増加傾向だ。一方でインターネット経由の販売が増えるなど販売ルートの多様化も進む。

その中で、勝宣社長は「守るところは守り、攻めるところは攻める。いまのままではダメ」と投げかける。泉州タオルのブランド価値をさらに高めようと模索を続けている。



後晒を含めた製法を守り通す

スピード感と柔軟性を意識

タオルの品質の高さはもちろん、出荷体制、設備、信用度などすでに確立している評価を維持、向上させ、そのうえで新しい製品をコンスタントに生み出す会社を目指す。「スピード感を持って新しいものを提案していけば、利益率も会社の知名度も上がる。品質管理をしっかりして、いいものをちゃんとした形で出していく。その繰り返しになる」と勝宣社長は続ける。

智行専務は「いいものをつくる会社であることをどう売り込むかが大事。『ウエノでつくってほしい』と言ってもらえる会社にしたい。スピード感と柔軟性を強く意識している。弊社も進化していかなくては」と発信力の強化も見据えている。



入念に行う検品作業

安心、安全、高品質なタオルづくりを



ウエノでは熟練した職人たちで特別な生産チームを組み、吸水性に優れ、肌触りのよい高品質なタオルづくりに励んでいます。使えばきっと品質のよさに気づくはずです。世界中のお客さまに知っていただき、愛用していただきリピートしていただけるよう、これからも安心、安全、高品質なタオルづくりを続けてまいります。



代表取締役
上野 勝宣

- **社　名**　株式会社 ウエノ
- **代表者**　代表取締役　上野 勝宣
- **住　所**　〒590-0521 泉南市樽井3−32−10
- **ＴＥＬ**　072−483−5335
- **ＦＡＸ**　072−482−3551
- **資本金**　10,000千円
- **従業員**　15名

- **主な取引先**　地方卸問屋、百貨店、量販店、ホテルレジャー事業会社、医療総合商社 他
- **主な保有設備**　津田駒エアージェット 15台、バルダン完全自動タオル縫製機 1台
- **主力製品**　タオル製品

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　量産OK　海外対応　試作OK　連携力

REPORTER'S EYE

勝宣社長と智行専務の役割分担を質問したところ、「１から100をつくる」のが社長、「０から１をつくる」のが専務の役割と答えが返ってきた。泉州タオルにはブランド力があり、品質のよさも知られている。しかしタオルを買ってもらうには、そこからいくつもの"壁"を乗り越える必要がある。冷静に淡々と話す社長と熱く語り続ける専務。タイプの違う２人の話から、ともに"壁"を乗り越えてみせるという強い気概を感じた。